

「特集・資料に向き合う」にあたって

紀要今号の日本文化学科編は、特集を組むことにした。

比較的に広領域の学問分野を含む日本文化学科は、「日本文化」という共通の研究対象を接合点にすると同じ時に、人文・社会分野の探求方法を切磋琢磨する共通の場となっている。本特集では、後者の結び目を一層具体的に掘り下げて議論するために、素材を提供し合う目的で、各研究の基礎となる資料研究を持ち寄ることにした。今号では、通時的な考察を試みるべく、論文四本で編集した。

考察素材としての資料に向き合う地道な研究方法の獲得は、本学をとりまく地域文化の掘り起こしと、将来を見据えた発展的活用への視点を養うことにつながる。水準高い学術論文の発信を目指しつつ、教育活動と連動した研究成果の公表として、紀要に特集を組んだ。

身につけて意味ある知的創造活動の実際を、教員と学生が磨きたいと思う。学術的批判を広く仰ぎたい。